

「テントウムシの羽化(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

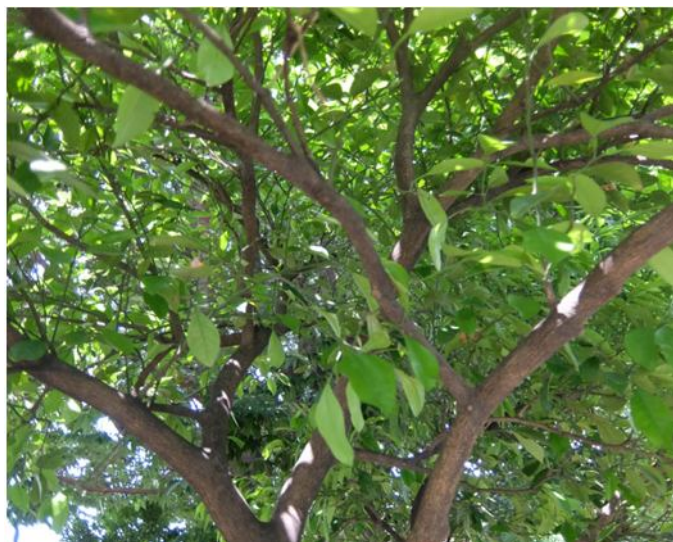
チョウ(蝶)のやガ(蛾)の仲間は、いずれも昆虫類(綱)、チョウ目(鱗翅目)に属する。ガのほうがずっと種類が多く、チョウは少数派である。実は、両者に明瞭な区別はない。非常に乱暴な言い方をすれば、「チョウはガの一種」と言える。そのチョウもガも、卵→幼虫→サナギ→成虫という「完全変態」の成長過程をとる。この「何度も変身しながら、短期間に成長する」性質が、チョウやガの教材性の高さと言える。

チョウの場合、モンシロチョウやアゲハチョウ(ナミアゲハやクロアゲハ)がよく使われるが、ガを使って学習する学校は非常に稀だろう。かつてはカイコガがよく使われたが、クワの葉の入手難や、成虫になったあと逃がせないなどの制約が多く、私もここ十年ほど教材として飼育はしていない。

さて、完全変態をする昆虫は、チョウ目の昆虫だけではない。たとえばテントウムシ(コウチュウ綱・テントウムシ科の昆虫)も完全変態である。成虫はかわいいが、幼虫やサナギはあまりかわいいとは思えない。そもそもテントウムシが完全変態の昆虫であること、幼虫やサナギがどんな姿なのかを知らない教師も多い。子どもたちも同じだろう。



写真は、本校の校庭隅にある、ミカン科の樹である。アゲハの卵、幼虫、サナギの採集、餌の採取には、誠に都合が良い。また白い花を咲かせたあとに、大きな果実をたくさんつけるので、「花から実へ」の変化の観察にも適している。



このミカンの樹の下に入って上を見上げると、実によく枝が張り、葉も茂っている。1本の樹なのに、何か森の中にいるような気分になる。ミカン科独特の香りが、樹全体を包んでいるようにも感じる。



このミカンの樹には、テントウムシの幼虫がたくさんいる。成虫とちがって、体中がトゲトゲで、ぜんぜんかわいいとは思えない。「幼虫」といえば、アゲハにしてもモンシロチョウにしても、動きは非常にスローという印象がある。だいたい、自分の体長分を前進するのに数分かかることもある。

ところが、テントウムシの幼虫はちがう。葉や茎の上を非常に速く動き回る。成虫と一緒に葉の上に置くと、成虫よりも速く歩くこともある。テントウムシの幼虫と知らなければ、とても昆虫の幼虫には見えない。幼虫として有るまじき行為だ。幼虫がいるということは、サナギもいるはずである。さて？